



〒892-0841  
鹿兒島市照国町13-42  
カトリック鹿兒島司教区  
電話099(226)5100  
振込口座02030-2-8359  
編集発行 教区広報部  
1部60円年間千共1100円

道標



## 教区評へ向け教区会計を見つめる

### 九月の定例司祭集会

九月十四日(火) 教区本部で開かれた教区で働く全司祭が集まり教区の諸問題について話し合う定例司祭集会(コンベンツ)では、主に来たる十一月三日開催の「教区評議会」(テーマ「教区財政の現状を知り、考えよう」)に向け、司祭たちが共通した認識を持ち、小教区で話し合い、準備できるように教区会計についての討議を行った。

会議の中で司祭たちは小教区における教会維持費納入の現状等を報告。その中には「信徒たちに教会維持費を納入するという意識が欠如している」というものから「教会、特に司祭が信徒の要望を満たす働きができていないのか反省すべき」など様々な意見が出された。その上で、教区会計担当の中野神父から司祭たちの共通認識のために次の五点について説明がされた。

- ① 一口五百円の財政正常化 献金を願った理由
- ② 教区・地区・小教区からなる教区の会計の仕組み
- ③ 教区会計の現状
- ④ 教区会計赤字の根本問題
- ⑤ これまでの赤字補てんの方法

これらの中で特に強調されたのは、教区会計の赤字の現状と長年にわたりその赤字を学校や幼稚園で働く教区司祭たちの給与からの「司祭寄付金」で補てんしてきた経緯だった。

## 小さな教会に鐘楼と掲示板

### 信徒数五人の大和教会



小宿小教区(ダウン神父(ドゥン神父)主任司祭)にある大和教会は在籍信徒数五人の小さな教会。その小さな教会で八月十一日(水)夜、地区合同のミサがささげられ、その中で完成した鐘楼の祝別が行われた。

鐘楼建設の作業に取り組んだのは、小宿小教区の青年と壮年の面々。猛暑の中汗だくになりながら、作業に取り掛かり、信者たちの予想を超える大きなものを完成させた。また同時に教会入口には掲示板も設置し、道行く

高齡化等により幼稚園や学校に勤務できる司祭が減少してくると、司祭寄付金に頼れなくなるためその方策を今のうちに講じる必要があると主張した。集まった司祭によって持ち帰られたこの日の内容は、小教区で更に検討されまとめられる。まとめられた意見は、教区評議会の席で小教区代表者から「教区財政正常化」についての提言として発表される。

月十一日(水)夜、地区合同のミサがささげられ、その中で完成した鐘楼の祝別が行われた。鐘楼建設の作業に取り組んだのは、小宿小教区の青年と壮年の面々。猛暑の中汗だくになりながら、作業に取り掛かり、信者たちの予想を超える大きなものを完成させた。また同時に教会入口には掲示板も設置し、道行く



人に教会の案内をすることができるようになった。ミサの後には参列した皆で茶話会を開き、温かい交流のひとときが持たれた。

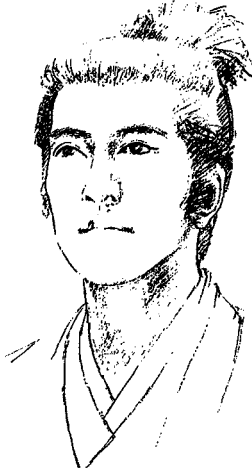
▼丸野六雄神父  
八月一日付でザビエル教会協力司祭。東京都出身、六十九歳。



## 福者レオ七右衛門殉教祭

11月14日(日) 川内教会

13時 講 演  
中野裕明神父(教区本部)  
演 題: 「聖ザビエルから福者レオ七右衛門へ」  
14時 ミ サ  
15時 巡 礼(京泊教会跡地へ)



## 新風

わたしたちキリスト信者はその務めとして、毎週の主日ミサに参列し、ご聖体を頂いてまた日常生活に戻ります。日常生活とは月曜日から土曜日まで毎日で、いわば勤務時間です。この生活の糧を得るための勤務時間中、わたしたちは信者であることを忘れて仕事に没頭します。しかしこのように毎日を送っていると、週に一回のミサも意識の中でだんだん習慣化してきて、形式的になってきます。形式的になってくると、子供の学校での行事とか、家庭の用事とか、仕事の都合とかがあると、そちらを優先してミサに行かなくなり、ミサ

## 典 礼 と 信 心 業

に行かなくなると、誘惑に負けてミサをさぼるようになります。しかし、少なくとも神様への信仰は持つていて「教会からは離れたくない」という気持ちも十分にあります。このような弱い人間を励まし、鼓舞し、ミサにあずかるという信仰の

リオ、十字架の道行、聖体訪問、聖体讚美式、聖体行列、聖母行列、聖所巡礼などがあります。典 礼 が、公的祈りであるのに対し、信心業は私的なものです。たとえば、病気の回復のためとか、受験合格とか、個人的な意向の成就のためになされるのが通常です。従って信心業は注意しないとご利益宗教、あるいは迷信へと発展する危険性も秘めているのです。「イワシの頭も信心から」と言われる日本人の宗教心も多分に信心業がその核を占めていると言えます。わたしたちは神への信仰と神を愛する信心を培うことによってより豊かな実り多い信仰生活を送りたいものです。(H・N)

## YET

中世ヨーロッパで上流階級者が楽しんでたというダンス(踏会)、何かの映画で観て、その華やかさとそこに集まる人々の理解しがたくもある遊び心に魅かれた。そして自分ならどんな仮面を...と考えた▼この夏、南薩の小さな教会で改宗式があった。ミサに参列しているのは四十人あまりの信徒。わずかかもしれないがそれらの人々の中に他宗派から「カトリックへ移る」の宣言が高らかに響いた▼「宣言する」それは人々に自分の生き方を公にすること。もちろん年配の方、これまでに宗派は違っていたとはいえ、同じキリスト教の中に身を沈められ、それなりの生き方をされて来たはず。愚か者には「そこまでするまでもない」との思いが浮かびました。でも彼はそうせずにはおられず、何者かにつき動かされたかのようには呼びかけにこたえ「ハイ」と返事をし一歩前へ進み出た。その潔い姿に何かしら熱くなるものを感じた▼幼児洗礼だったからはずきりとした宣言の記憶がない。だから新信者が誕生する瞬間に遭遇するとある種の感動がある。と同時に「愁傷様」と言いたくなることも。それはたぶん自分の優柔不断ないかげんな生き方のせいだ。洗礼時に受洗者に渡されるパウソクの光や白い衣、それが二度と外すことのできない「キリストの仮面」だとしたらと想像してしまっただからだ▼「信じます」「ハイ」と返事をしてしまっただ瞬間から最期の時まで、キリストのように振舞うマスカレードの始まりだと思おうと「ハイ」が恐ろしくなる。

①主任神父の歓迎の言葉  
(入来教会：アッシュヤー神父)

②祈りをもって始める。  
特に三位一体の神を信じ、従う恵みを求めて代表者が祈ります。

前回できなかった『信仰宣言』の「子」について神学的にどのように捉えたらいいのか、今回も学びを中心としながら深めて行きたいと思えます。参考文献としては「カトリック教会のカテキズム」(カトリック中央協議会発行、二〇〇二年発行)を使用致します。

「子」について (前掲書 四四二―六八二項参照)

「子」についての内容を「使徒信条」と「ニケヤ・コンスタンチノープル信条」を比較してみると明らかに後者の方が長くなっており、子についての言及がより詳しくなっていることが解かります。長くなっている部分のみ記せば『すべてに先立つて生まれ、神よりの神、光よりの光、まことの神よりのまことの神、造られることなく生まれ、父と一体。すべては主によつて造られました。主はわたしたち人類のため、わたしたちの救いのために天から下り、』であり、この部分が長くなっている箇所です。共通している部分は

①「イエスの主な称号(キリスト、神の子、主)」、②受肉、③死と復活、④栄光化です。「ニケヤ・コンスタンチノープル信条」の長くなっている部分は①と②の間に入っています。

①「イエスの主な称号(キリスト、神の子、主)」、②「三〇項：イエスという名はヘブライ人が持つ名前として使われていた固有の名前です。」

名前です。その意味は「神は救う」です。天使ガブリエルによつて告げられたこの名はイエスの身分と同時に使命を表しています。神は人となられた永遠の御子であるイエスにおいてご自分の民を罪から救おうとなさる救済史全体を完成することを望まれたのです。

四三六項：キリストという言葉は「油を注がれた者」という意味のメシアというヘブライ語のギリシア語訳に由来するものです。これがイエスの固有の名前となったのはそれが意味する神からの使命をイエスが完全に成就されたからにほかなりません。

四四一項：神の子という称号は旧約聖書の中では、

北薩地区宣教奉仕者 (信徒使徒職) 養成講座

信仰宣言を神学的に捉える②

出水教会主任司祭 大松 正弘

とは異なる者、天使たちにすら勝るものと言われました。

四四四項：聖書はイエスの洗礼と変容の厳粛な時に、御父がキリストを「私の愛する子」と呼ばれたことを伝え、イエスもご自分を「神のひとり子」と呼び、この称号によつてご自分の永遠からの存在を断言しておられます。十字架の上のイエスを前にして、百人隊長は「本当にこの人は神の子だった」と言い、すでにここにキリスト者の信仰告白が表れています。イエスの死と復活の神秘を前にして初めて、信仰者は「神の子」の称号の究極の意味を把握できるのです。

四四六項：主がモーセに現された神秘的な名

は旧約のギリシア語訳ではキュリオス(主)と訳されています。したがって、主はイスラエルの神の神性を現すための通常の名となっていました。新訳では「主」の称号を持つ特別な意味を御父のみならず、イエスにも当てはめ、イエスが神の子であることを認めています。

四四七項：公生活中、自然界、病氣、悪霊、死、および罪を制圧されたイエスの業は、神としての主権をあかしするものでした。四四八項：福音書ではしばしば、人々は「主」とお呼びしてイエスに話しかけています。この称号は、イエスに近づいて、助けと治癒を期待する人々の尊敬と信頼を示すものでした。復活後のトマスは「イエスに對してのことばはわたしの主」とばとなりました。

四四九項：教会の初期にできた様々な信仰宣言は当時から、イエスに主という称号を与えています。これは父である神に固有の力と誉と栄光がイエスのものであるとの主張にほかなりません。というのもイエスは「神の身分」であり、御父がイエスを死者の中から復活させ栄光のうちに高く上げることによつて、イエスの主権を明らかにされたからです。

「ニケヤ・コンスタンチノープル信条」にみられる付加部分について

これについては「カトリック教会のカテキズム」では言及がありません。しかし、明らかにヨハネ福音書にみられるイエス理解がその根底にあると考えられています。「神と共にあつた先在のイエス」は造られることなく「神から生まれ、父と子の同一本性が強く宣言されています。また、天の御父が人類を救済しようとしておられる意志によつて、御父が御子を天から遣わされたことを宣言しています。同時にこの宣言の背後には、多くの異端に対する正統信仰を擁護する意図があります。キリストの神性を否定する異端や、仮現論、養子説、などに対して正当な信仰を擁護する目的もあ

りしました。今回は信仰宣言の内容の「子」についての①「称号」と「ニケヤ・コンスタンチノープル信条」の「子」についての付加部分のみ触れました。今回は②受肉、③死と復活、④栄光化の部分について学んで参りたいと思います。短い信仰宣言ですが、信仰宣言の内容を理解することは聖書全体から「三位一体の神」について神学的に理解することにはかなりません。その意味で「信仰宣言」は信すべき内容が短くまとめられた、誰でも覚え易い、信仰の先輩たちからの遺産です。この遺産をより深く、大切に次の世代に伝えていくことは現代に生きるキリスト者の使命です。

+KABAYAN SEKSIYON+

"Mga Hadlang sa Paniniwala sa Pagiging Sarili"

Bukod sa mga hadlang sa tatlong pangunahing makatataya (objective) dimensiyon ng tunay na pananampalataya (ano an gating pinaniniwalaan, ginagawa at sinasamba) ang iba'y tumatalakay sa mga mapansariling (subjective) dimensiyon (paano tayo naniniwala, gumagawa at sumasamba) sa ating likas na proseso ng pagiging ganap sa Pananampalataya. Mahalagang bigyang pansin ang mali-ang kaisipan ng maraming kabataang Pilipino na masama "ang pagtatanong tungkol sa pananampalataya." Nagmula ito sa maling pananaw, na malimit ikintal sa isip ng mga may magagandang hangarin subalit mali sa pagtuturo ng relihiyon, na ang pananampalataya ay isang bagay na tinatanggap lamang mula sa mga nasa mataas na katu ngkulan. Sa aktuwal na nangyayari dahil ang pananaw na ito'y napakadulas ibinabahagi sa pagkabata, nagiging madaling pangangatwiran ito kalaunan sa pag-iwas sa personal na pananagutan para sa mga pansariling paniniwalang pangrelihiyon.

Tugon- Ang nakatutulong ng malaki rito ay an gating patuloy na pagmumulat sa Pananampalatayang Kristiyano na kinapapalooban ng aktibong pakikibahagi n gating pamilya, mga kaibigan, BCCs, parokya, Katolikong Sambayanan, atbp. Nananawagan sa atin si Kristo at ang Simbahan para sa isang matalinong pagsunod, na kung saan ay ginagamit natin ang lahat ng kakayahan n gating isip, kalooban, imahinasyon, at mga pandama. Kailangang malinaw nating Makita ang pagkakaiba ng dalawang magkaibang takbo ng kaisipan. Ang una ay ang matapat na pagtatanong na naghahanap na makilala nang higit ang ating Panginoon sa pamamagitan ng sariling pag-aaral, pagninilay at pakikipag-usap para Siya'y mahal in natin nang higit na marubdob at masundan Siya nang higit na malapit. Ang pangalawa ay ang makasaring asal ng tunay na pagdududa, gaya ng nag-alinlangang si Tomas, kapag nagbibigay tayo ng mga pangunang kondisyon bago maniwala sa Diyos ("Hindi ako maniniwala hangga't di ko nakikita...") [Jn 20:25]

Hinahamon tayo ng ating buhay pananampalataya na patuloy na umunlad sa pang-unawang pangrelihiyon, pananaw na moral at pagsasanay, at taimtim na pana langin. Matutupad ito kapag pinalalakas at pinagtitibay tayo ng ating mga kapwa-Katoliko na nagkakaisa sa local na Simbahan na siyang sambayanan ng mga alagad ni Kristo

[和善の窓から] その⑫  
ふるさとの言葉



聖書研究は、(神の言葉) についての学びです。和善の聖書では、(人の言葉) についても理解を深めようと思っています。とりわけ方言という言葉は、その人々の歴史、文化、また匂いというものが色濃く織り込まれた言葉です。私たちは、「生活の中」でしか御言葉を読めないといっても過言ではありません。

「御言葉の分かち合い」という祈りは、私たちの日常生活の中で「福音」に触れる祈りです。生活の言葉、つまり「方言」の中に「福音」を探するという意味で、私は「宝探しの祈り」とも言っています。

～和善の案内～  
※月 18 : 30 ※水 10 : 00 (第 2, 4 於 始良) ※ WAZEN ころろ相談室 (第 1・第 3 : 要予約) ※ 金 10 : 00 <<各クラス新しい参加者を募ります>>各定員 (14 人) ※和善参加者を通して毎月「特別講座」のお知らせあり

http://mr826.net/wazen/blog (Fr. マツダ)

「だれもかれも、自分のふるさとの言葉が話されているのを聞いて、あつけにとられてしまった」(使 2:6)。

「故郷の言葉」は、聖霊降臨の主日第一朗読から選びとった語句です。「ふるさとのことば、ふるさとのことば」と数回呟いてみてください。まあ、「故郷の言葉」といえば、大方は母国語、そして地方語、つまり方言ということでしょう。それはその人々に深く受肉している言葉ですね。

ある日、朝早くミサをすませて、車で二時間近くかかるころの教会まで行きました。亡き母を知っているという方に会うためです。ぼく自身は直接の面識はありませんが、生前の母を知っているということだけでお会いしたかったのです。91歳という(若さ)で、足腰もしっかりして、会話するのが楽しい方でした。共通の「故郷の言葉」で話し合うと、まるで亡き母と話しているような思いがしてきました。

(感謝の祈り) 参加者の誰かが自分のことばで感謝の祈りをささげる。

次回は十月十七日(日) 十四時から、阿久根教会で行われます。

# 祈って山に登った夏

## 教区の神学生たちが合宿



八月二十四日(火)から二十五日(水)まで教区の神学生(大神学生二人・小神学生三人)は合宿を行い、

テーマに「イエスは祈るために」を掲げました。それはイエスさまが祈るために何をしたかを体験しながら共に分かち合い、そして弟子たちがイエスさまに従ったように私たちもイエスさまに従うことができるようにとの願いを込めたからです。

場所はマリア山荘でした。観想修道会の聖血礼拝会の修道院を訪問し、シスターの方が祈りに生きるためにどのような生活をしていくかを見学させていただきました。また「イエスは人里離れた所に退かれた」と聖書に度々記されているよ

うに人里離れた場所で宿泊し、翌日は「イエスは祈るために山に登られた」に倣い、神学生全員で韓国岳登山を行いました。神学生たちはある意味で特殊な環境の中で生活し、学びを進めています。自炊し、祈り、山に登ったこのひと夏の些細な体験が、今後の神学生生活に大いに影響するでしょう。その中で、共に協力し合いながら何事

## 「人間の神秘」を学ぼう

### 十六日からマリア山荘黙想会

二〇〇六年に永山幸弘神父が着任して以来、同神父が講師を務め毎年開催されるようになった「マリア山荘黙想会」の今年のテーマ

## 司教執務室便り

### 巡礼で結ぶ信仰の輪

かつてお世話になった司祭のお見舞いに行かないかとお誘いを受けたのは五月頃だったと思う。ヨーロッパ巡礼は難行苦行の十一時間という先入観があるので二の足を踏んだのだが、霊性の扉を開いてもらった恩あるイエズス会の司祭だけに参加を決定した。それに、ジェジュ教会訪問も予定に入っていると分かったので、お見舞いもさることながら、こちらがもう一つの大きな動機となったことは確かだ。実際、巡礼の最終日に「ジェジュ教会とザビエル教会との姉妹盟約を結びたい」という思いをイエズス会の総長のニコラス神父さんと主任司祭にきちんと伝えることができたことは大きな成果の一つだ。

ハンガリーは50パーセントがカトリック信者の国らしいのだがローマとともに観光や巡礼客の教会という印象を受けた。教会建築や芸術性に富んだ聖堂内はそれなりに人をひきつけるものがあるかもしれないが、旅の魅力はそこに暮らす人々との出会いだ。その点、十月に企画されている教区巡



礼委員会主催のマニラ巡礼は一味違うものだ。まず、できたばかりのカトリックセンターが宿泊先というのも嬉しい。巡礼なので信仰の雰囲気のあるところが望ましい。すでに司教様や小教区からの会食のお招きもあると聞く。それに最終日となる十七日はショッピングモールでの主日のオープンミサを体験する時間もセットしてもらった。別室ではなく、買い物客が往来する一角でミサを捧げるといふ発想に驚くが、こうした生活に根付いた信仰の姿に触れることはガラッと大聖堂を訪れるよりもはるかに刺激的だ。それに、たとえ貧しさの中にあってもおらかに生きる人々との出会いで学ぶことは多い。

海外への巡礼といえばヨーロッパという発想から鹿児島では「巡礼」といえばアジアという考えを定着させたい。来年はベトナム、再来年は韓国。すでにボクの中では決まっているもとも身近な国々だからだ。その間に「二日巡礼」が年数回。更にはマラッカ、ゴアへと広げていきたい。巡礼によって教会と教会、信者と信者が結ばれ、アジア神の国が実現する。こうしてザビエル様が見た夢の実現が鹿児島から始まる。

## 秋の巡礼=参加者募集= 教区巡礼委員会

- 福者レオ七右衛門殉教祭巡礼 11月14日(日) 巡礼バス運行 費用:2,000円
- 屋久島シドッチ祭巡礼(1泊2日) 11月22日(月)~23日(火) 費用:35,000円
- 屋久島シドッチ祭巡礼(日帰り) 11月23日(火) 費用:18,000円
- 種子島カタリナ祭巡礼(1泊2日) 11月27日(土)~28日(日) 費用:35,000円

申込・問合せ 教区巡礼委員会 徳永善博委員 TEL 099-206-7221 携帯

かをなしていく体験をもっともつと味わえるようにしたいものです。年に一度のささやかな合宿ですが、今後とも信徒の皆さまのご支援、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。なお、今回の合宿で様々な形でご協力いただいた方々、特に溝辺教会の方々に、誠にありがとうございます。(報告・久保裕己神学生)

にこで、いずれも時間は午前十時半から午後三時までとなり、会費は弁当代込みで千五百円。一泊黙想会は土曜日の午後四時半から日曜日の午前十時半まで開かれ、第一回が十月十六日と十七日、第二回が十一月二十日と二十一日となっている。テーマは日帰り黙想と同様で、会費は夕食・朝食代込みで三千五百円。出席希望者は、住所、氏名、電話番号を記入の上、黙想会開催日の一週間前までにハガキかファックスでマリア山荘黙想会係まで(〒八九九一六四〇四霧島市溝辺町麓三六一六四三二〇)。

## 「短信」

▼ザビエル教会で堅信式 九月十二日(日)ザビエル教会で堅信式があり、六人が受堅した。▼夏期講座に八十人 毎年恒例の夏期講座が八月二十三日(月)から五日(木)「マニラ」私たちはキリストにおいて新しく造られた。二回目十一月二十五日(木)「マニラ」新しい人間として生きるため

## 10月会と催し

- 3日(日) 年間第二十七主日
- 4日(月) 松田清四朗神父・平孝之神父霊名(アシジの聖フランシスコ)
- 5日(火) 牧山田一神父叙階記念日(一九六一年)
- 10日(日) デルクス神父命日(一九八〇年)
- 12日(火) 福岡英雄神父叙階記念日(一九八九年)
- 17日(日) アッシュヤー神父霊名(聖マックス)
- 18日(月) 年間第二十九主日
- 19日(火) 聖ルカ福音記者
- 24日(日) レデンプトール会例会
- 24日(日) 奄美例会
- 24日(日) 年間第三十主日
- 25日(月) ▼世界宣教の日(献金)
- 27日(水) 世界にはまだキリストを知らない人がたくさんいます。日本でもわたしたちはキリストを知らない人たちに囲まれて生きています。キリストを伝えることである宣教は、神の子ども、キリストの弟子となったわたしたち皆に与えられている使命です。「世界宣教の日」は、すべての人に宣教の心と呼び起こさせること、世界の福音化のために、霊的物的援助をはじめ宣教者たちの交流を各国の教会間で推進することを目的としています。この日の献金は、各国からローマの教皇庁に集められ、世界中の宣教地に援助金として送られます。日本の教会は、いまだに海外から多くの援助を受けていますが、経済的に恵まれない国々の宣教活動をさらに支援できるように成長していきたいものです。
- 28日(木) ▼大水如安神父命日(一九九四年)
- 28日(木) 東研神父叙階記念日(一九六四年)
- 28日(木) 大松正弘神父霊名(聖ジェラルド)
- 28日(木) 聖シモン 聖ユダ使徒
- 28日(木) 年間第三十一主日
- 28日(木) ▼ミタマヤ神父命日(一九八四年)

## お知らせ

- パドレ・ピオの集い 10月10日(日) 14時~ 古田町教会 / 10月11日(月) 13時~ ザビエル教会 指導:ペトロ神父(カプチン・フランシスコ会) ※自由献金
- スピリチュアル一日研修(日/月) (日)「スピリット」10月23日(土)9時30分~16時30分 (月)「スピリチュアルティ」「スピリチュアルライフ」10月24日(日)9時30分~16時30分 ※いずれもかごしま県民交流センター中研修室第1 W・キッペス神父 2日間で8,000円(1日のみは5,000円) 申込:松村恵理(Tel 099-248-2412・090-9499-0198)
- 一日マリアポリ 10月24日(日)10時~17時 教区本部 参加費無料(弁当が必要な方は直までTEL 090-5026-5921 500円)

私たちの教会(名瀬聖心教会)では、毎年七月に「みこころ夏の夕べ」を催しています。今年七月十九日(月)午後六時三十分から行いました。この催しの趣旨は次のようなことです。

「自分たちだけ、日ごろから親しい交わりのある仲間だけで楽しんでる現実を謙虚に反省し、誰と喜びを共にするのかを考える機会とすること。例えば配偶者の一方がカトリック信者でない家庭に心を砕き、班長や隣近所の信徒たちが呼びかけ、彼らと一緒に参加する努力をする。そしてただ招くだけでなく、招いた人と交わり、聖心教会の信徒にふさわしい愛を實踐すること」

このことについては司牧評議会をはじめ、班集でも話し合われ、身近でかかわりを持つ人を一人でもこの夏の夕べに招く努力をするのが教会の目標となりました。

私はこの催しに「信者さんではない友だちを誘うのをどうしようか」と正直迷っていました。「来てくれるかな」「断られたらどうしよう」と人間的な思いに囚われていたのです。でも教会で決めた目標が心にひっかかっていたので、二人の友に声をかけることにし、あとはイエスキリストに任せようと思えました。そして友だち二人に声をかけ、この催しのため、また福音

## 小さな奇跡を体験

—みこころ夏の夕べで—

### 聖心教会信徒

彼女たちは十字架に興味を示し「なぜあの方は十字架に付けられたのですか」と聞いてきました。私はあの方がイエスキリストであることを説明し、「贖い主」であることをユダヤペトロの裏切りとその後

望、希望ですよね」と言い、一人の娘さんの目には涙が浮かんでいました。きつとその娘さんには辛いことがあったのかもしれないと私ですが、「また来てほしいですか」と尋ねられましたので、「いつでもどうぞ」とこたえておきました。彼女との出会いは、神様が何かのしるしを見せて下さったに違いないと思ふことで、この夜は興奮してなかなか寝つけませんでした。小さな小さな奇跡だったのかもしれない。

の証となれるよう祈りました。当日は二人の友は来てくれました。そして一人は娘さんの友人を、もう一人は娘さんとそのお友だちを連れて来場してくれました。夏の夕べの催し物を共に見て、ご馳走を頂き、会話などしていましたら、二人の娘さんが教会に顔を向け「ここに一度も入ったことがない」と言われました。私は内心驚きましたが「では入りましょうか」とお誘いすると「ハイ」の二つ返事。中ではいろいろと説明

## 賛助会員へのお誘い

### NPO法人「聖の郷ゆらいあい」

『人生を最後まで、共に支え合いながら、信仰を生き抜きたいですね』

私たちは、だれでも長年住み慣れた家・地域で高齢期を迎え、精神的にも霊的にも満たされて生きて行くことを願っています。身体的に不自由になり一人での生活が難しくなってきた。

「ゆらいあい」は人間愛を中心として、二〇〇五年から月に二回、土曜日に鹿兒島市内外の高齢者を対象に、たくさんのボランティアグループの支えによって、祈り・信仰の分かち合いを實施しております。今後は更にお互いに支え合いながら、信仰生活をより良く生きるために、シル

私が小学校四年生のときに第二次世界大戦が始まりました。そして六年生になった私は海洋少年団に入団し、手旗信号、モールス信号など学ぶ毎日でした。またボート漕ぎで身体を鍛えてもいました。なかなかの優等生だったと思えます。そして中学一年時には

その頃は、食料を輸送する船もなくなっており、最初は大きかったオニギリも五月になるとソテツの幹の芯の部分に粉にして作った団子に米粒がパラパラと付いている程度のものになりました。私はその団子がありました。私はいま米だけを食べていましたが、日に

### 記

賛助会員年会費：一口一万円(何口でも結構です) 二〇一〇年九月 特定非営利活動法人 「聖の郷ゆらいあい」 (事務局 TEL〇九九一 二五三一六六五八)

理事長 泉 浩二神父 理事会・運営委員会一同

### みことば シリーズ⑩

## いつもそこに主の導き

### 終身助祭 久保俊弘

い出したくありません。八月に終戦を迎え、私たちは中学に戻ることができました。そして旧制中学四年のときにグアムからカプチン会(アメリカ)の神父二人が来られ、教会も建てられました。余談ですが、その頃、公教要理を担当し

が、二人きりになると罪を犯す機会があるので危険です」と答えられました。また片言の日本語しか話せないアメリカ人神父様とはこんな具合でした。ゆるしの秘跡で神父様が「人を殺したことがありますか」と質問します。私は「いいえ」

すると今度は神父様は「物を盗んだことは?」。私はさとうきび畑で一本食べたことを思い出して「はい」。すると主の祈りを償いとして三度唱えるように言われました。 そんなほのぼのとした時代にいった教会でしたが、世間には共産主義者も多く、教会への目はまだまだ厳しい頃でした。そんな中で迎えた高校三年の時、創立五十周年記念誌に掲載する作文の公募があり、私は「イエズス・キリストの素晴らしさ」について書いて応募しました。編集委員の中にはこの原稿の掲載に反対した者もいたようすが、なぜか掲載されました。同じようなことはまだありません。大学一年の時の寮の新聞へもキリストについて

の原稿を書いたところ、掲載されたので、振り返ってみると何かの力が働いていたように感じます。そして今のことです。司祭職に憧れは持っていたものの「結婚はしたい」と世俗の道を選んだ私でした。それがこの歳になって終身助祭に導かれたのです。主の計らいの不思議さを感じています。これこそ「私は世の終わりでいつもあるが、たがと共にいる」(マタイ28・20)で、私一人では到底できなかったことがなされていくとき、そこにはすべて主の導きがあったのだと思う毎日です。



### 文芸

#### 俳句

純心学園 川上 和  
百日紅恩師の思いやあかね色  
純心学園 山頭 信子  
聖母像立ちますところ栗の花  
霧島市 政 ノブ子  
朝のミサ稲田の香り乗せて行く  
愛光園 春山マリ子  
きれいだなあーみんなの心虹の橋  
鹿兒島市 田平新太郎  
白く咲く花いちもんめ男郎花  
出水市 沖 弘子  
芙蓉咲く島の岬の殉教碑  
鹿兒島市 徳永ノブ子  
秋ひと日恵みの雨で火山灰流る  
燭 歌

#### 詩

真夜中に花婿迎えしおとめらのかしこき  
油宴会へ燃ゆ  
鹿兒島市 前田 儀子  
地球儀を回しつゝある暑き午後未知なる  
地図の模様をさまよふ  
東雲色  
鹿兒島市 田平新太郎  
明け方の 桜島を包む  
白み始める東の空は  
刻一刻と変わる  
黄ろく、うす赤く  
変わりゆく輝きは  
あたしの好きな曙色に  
峰の形をととのえる  
いよいよ裾野を画き  
錦江湾に紅く  
桜島を浮べ得る刻  
街屋根に囲まれる  
十字架がいざなうように  
東雲色の今日がはじまる